



TITLE:

## 先輩からのメッセージ

AUTHOR(S):

荒戸, 寛樹; 松岡, 孝恭; 寺嶋, 知憲; 嶋田, 悠一

---

CITATION:

荒戸, 寛樹 ...[et al]. 先輩からのメッセージ. 岩本ゼミナール機関誌 2010, 14: 175-177

ISSUE DATE:

2010-02-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/109835>

RIGHT:

## V. 先輩からのメッセージ

9 期生・TA 荒戸寛樹

十五期生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

皆さんもう卒業なんですか。早いですねえ。皆さんで行った合宿は楽しかったなあ。岩本先生とトランプをしたのは後にも先にもあの一回だけです。皆さんにとって、岩本ゼミの三年間はいかがだったでしょうか。楽しいことも大変なことも多かったと思いますが、ディベートや論文執筆を通じて培われた、知識を吸収してそれを伝える力、仲間と協力して一つの成果を生み出す力といったものは必ず皆さんの武器として役に立ってくれるはずです。それぞれの進路へ自信を持って進んで頂けたらと思います。

私は 10 年以上過ごした京都から離れて、現在は東京で生活をしています。こちらに来て一年も経っていないにもかかわらず、あののんびりとした百万遍の空気や活発な岩本ゼミの雰囲気が恋しくて仕方ありません。今度京都に行く際には岩本先生と是非一杯やりたいと思っています。卒業される皆さんも、これからも岩本先生や先輩、同期、後輩との繋がりを大切にしながら、それぞれの世界でご活躍されることを期待しています。

では、また青竹会で会いましょう！！

10 期生 松岡孝恭

15 期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

学部を卒業してから 5 年が過ぎ、今年度で大阪大学経済学研究科の博士課程を修了する予定となっています。先日提出したばかりの博士論文を読み直してみると、分析のアプローチや議論の進め方が、3 回生の時に書いた FTA に関するゼミ論文とよく似ていることに気付きました。テーマが違っていたり、テクニックがすこし洗練されていたりするものの、分析のコンセプトに違いがありません。論文の執筆に必要なスキルが岩本ゼミで鍛えられたことに感謝すると同時に、岩本ゼミでの活動は自分にとって比較優位となる分野を見つける過程であったと改めて思いました。

岩本ゼミで切磋琢磨されてきた皆さんは、非常に優秀な人たちの中で自分の能力を位置付けて何が自分の強みなのかをよく知っていることと思います。「どういうわけか知らないけど、この仕事は割とうまくできる」と思う分野が自分の強みになりますので、そこで能力を開花させ、それぞれの持ち場でよい仕事をされることを期待します。

15 期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

まだ、みなさんが二回生だったころ、一つ上の先輩たちと、インゼミに向けて一生懸命頑張っていたことが、とても印象的で、懐かしく思い出されます。

あれから二年経ち、いろいろな経験を積んで、さらにたくましくなっておられることかと思います。

社会に出て新たな一歩を踏み出す人、大学に残り学問の道を志す人、卒業後はそれぞれの道を歩むことになりますが、新たなステップに進むにあたって、一つだけ皆さんに伝えたいことがあります。

それは大学生活を通して築き上げた人の輪を、大切にしたいという事です。大学やゼミという、同じ環境の中で過ごしてきたからこそ、互いにわかりあえることが、たくさんあり、その輪は、これからの人生で、唯一無二の貴重な財産になるはずです。

私も、社会人になってから、何度も壁にぶつかりました。そんな時、必ず大学時代の友人やゼミの同期が助けになってくれ、壁を乗り越えることができました。みんなとは離れて九州で働いていても、彼らの存在はとても励みになっており、お互いの近況を報告しあって刺激をもらっています。

私も社会人としての道を歩みはじめたばかりで、学ばなければならないことや成長しなければならないことが沢山あります。日々成長していけるよう、皆さんとも切磋琢磨していけたらと思っています。

また、みなさんと酒を酌み交わしながら、学生時代の話や、近況を聞けるのを楽しみにしています。

15 期生のみなさま、ご卒業おめでとうございます。

もう 15 期生のみなさんも卒業する時期になったのだなという思いです。みなさんが岩本ゼミに入ってきたときのことは今でも覚えています。15 期生は人数も多く女性も多かったのも、岩本ゼミがより活気付き、華やかになりました。また、みなさんの勉強に対する姿勢もすばらしく、感心していました。まさしくみなさんが岩本ゼミに新たな風を吹き込んだのだと思っています。

私は社会人になって 1 年が経とうとしています。学生時代が懐かしくなることもしばしばあります。仕事柄もあり、岩本ゼミで得た経験が活かされることもありました。みなさんも、この 3 年間に岩本ゼミで得たものは大きかったのではないのでしょうか。ディベート、論文発表では、自分達で設定した問題意識に向かって仲間とともに研究し、議論するという貴重な経験をしました。大切な同期に出会い、先輩・後輩のつながりもできたと思います。この経験、仲間、先輩後輩との出会いをこれからも大切にしてください。

みなさんの前には大きな世界が広がっています。実際私もこの 1 年で、様々な経験をし、様々な出会いもありました。色々な出会い・経験をすることで、改めて京都大学のよさ、岩本ゼミのすばらしさを感じることができると思います。ぜひみなさんもこれから、「京都大学岩本ゼミ」で学んだことを誇りに持って、新しい世界に飛び込んでほしいと思います。

最後になりましたが、みなさまの“次のステージ”での更なるご活躍を祈念しています。